

尊い命を大切に

子供たちが戦争について学ぶ「コープぎふ子ども平和新聞」が7月26日、岐阜市のハートフルスクエア-Gであった。長崎原爆で被爆した木戸季市さんと平和資料室友の会の魚次龍雄さんから話を聞き、兵器や岐阜空襲について理解を深めた。

平和



25 25

新聞

木戸さんは5才のころ長崎で原爆を経験した。原爆があった日、爆心地を通り転がっている焼けっぱした死体



みんながつらい戦争
岐阜市立加納西小学校 5年小竹真白

や木造の焼け落ちた家などを目の当たりにした経験から絶対かたいて生きないんだと思



もし生き残れてもつらい経験をしなけりばいけないんだと思

私は、魚次さんからう。太平洋戦争でのアメリカと日本の兵士の命へもので、絶対に大切に考えた。アメリカは、だから私は、当時の日計画を立てて乗組員の本人の命への考え方が命を大切にしていたとゆるせない。



人の命を軽くみていた日本
中学校1年 寒水希乃花

の命を使いすてのように使った。そのため、死者が多くなったと思



僕は、長崎で被爆のだと思います。した木戸季市さんの 岐阜でも空襲にお話を聞いて心に残って、たくさん人の被たことは自由に生き害が出ています。るすばらしさです。僕は戦争のない木戸さんは自由に生平和な世の中にしきるすばらしさを知りたい。



自由に生きるすばらしさ
岐阜市立西郷部小学校6年早野天翔

な世の中にするために、兵器をなくそうと語っている

